

第1回 湖西市定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

開催日時	平成25年7月8日(月)午後6:30~午後8:30
開催場所	湖西市役所2階 市長公室
委員	(出席者) 10人 (欠席者) 1人 (事務局) 5人
内 容	
1 事務局のあいさつ 本日はお忙しいところ出席いただき、また、委員の選出にいたしましても、快くお受けいただき重ねて御礼を申し上げます。 定住自立圏共生ビジョンの構想としては、地方から人口の流出を止めることで定住化を図り、地域の自立や活性化を促すために、地域の連携と生活機能を確保することで定住人口の受け皿を形成しようとする趣旨のもので、詳細については会の中で担当から話をさせていただく。総合計画を進めるための1つのツールとして考えている。	
2 委員の紹介	
3 議題 (1) 委員長の選任及び副委員長の指名について 委員の推薦により、高柳委員長を選任、委員長より井川副委員長を指名 (2) 定住自立圏構想について ア 定住自立圏構想の概要、イ これまでの取り組みについて、事務局が説明 (質疑応答) 委員：定住自立圏の中心市になると、何か特権があるのか。 事務局：総務省でこれからの日本が地方圏での人口減少に関して取り組めば、財政的支援がある。その事業については、新規・既存に問わず支援してもらえる。 委員：定住自立圏共生ビジョンは平成25年から平成29年の5年間という期間であるが、それ以降はどうなるのか。 事務局：計画期間は5年間で、成果を毎年検証して5年間で支援制度は終わるが、まちづくりは続いていくものなので、総合計画でまちづくりを引き継いでいく。 今回のこの取り組みというのは、総務省のプログラムを利用するために5年間の計画として策定するものである。 委員：具体的に周辺市町村とはどこなのか。 事務局：元々が別々の自治体が手を組んで1つの圏域を作り、定住化のためのまちづくりに取り組むというのが制度の発端であるが、合併した所は、それぞれの地域が	

行政的に1つになってはいるが、1市でもこの制度を利用することができるので、あえて言えば旧湖西市と旧新居町ということになるが、すでに合併しているので1市で取り組む。

委員：定住化のために、例えば湖西市は工業が発達していて相良の方から仕事に来る人が多い。その人たちが他のまちよりも湖西市に住んだほうが良いと思えるように支援をしていくのか。

事務局：定住化してもらうためには、総合的な住みやすさが重要になる。仕事があることから始まって、子育てがしやすいであるとか高齢者のための施策が整っているとか色々なことがある。今回のビジョンについては、総務省のプログラムで3分野について取り組みをまとめなさいということで「生活機能の強化」「結びつきやネットワークの強化」「圏域マネジメント能力の強化」の3つについて取り組んでいく。こうした取り組みで生活環境を向上させて定住化を図っていきたいと考えている。

委員：中心市は湖西市でよいのか。

事務局：中心市は旧湖西市、周辺は旧新居町になる。

委員：財政支援は国が示したプログラムを実施していくことで得られるのか。合併だけでなく他市町の場合は条例の特例などはあるのか。

事務局：1市でも複数市でも特に変わらない。

(3) 共生ビジョン（案）について、事務局が説明

(質疑応答)

① 圏域の現状と課題（P2～14）

委員：10ページの観光交流客数推移の数値の根拠は。

事務局：平成25年3月に湖西市で観光基本計画を策定しており、静岡県観光レクリエーション統計から数値を算出している。

委員：新居地区も含まれているのか。

事務局：含まれているが、どの観光施設かまでは特定できていないので確認する。

委員：市内の観光レジャー施設の客数ということでよいのか。

事務局：その通りである。

委員：あまりにも数字の減少率が高いので、それはなぜなのかというのが気になる。

委員：観光といっても、現在は多様化しておりレジャー施設ではなくて、道の駅や少しずつ増えてきた施設があると思うが、そのようなところが含まれているのか、大きい施設だけの数値なのか。

委員：観光交流客数を具体的に割り出した数にしてもらいたい。

事務局：詳細は確認する。大きく減っていると思われるのは、競艇が大きく減ってきて

いると思われる。新居の関所なども観光バスのルートから外れたことが原因にあるのではないか。道の駅は比較的数が減らずに安定した客数を保っている。

委員：流入・流出人口なども、どこからどこに流入・流出しているのか、就業人口も減っているのが、どのような就業者が減っているのかなど、今後考えていくにあたって詳しいデータが必要だと思う。

委員：全体的に幅が広すぎて、かなり案件が出てくるように思う。最終的にどこの部分話し合うのか明確にしてもらわないと、話し合いが終わらないように思う。

委員長：今回は初回なので、圏域とはということを入れていただき、圏域の現状や将来像を一通り把握し、これから絞り込んでいかなければならないと思う。

委員：13ページの天竜浜名湖鉄道各駅乗車人員の表で、平成22年が2つある。

事務局：訂正する。

委員：全国と比べて湖西市の人口減少が増えているが、若者の流出が考えられているのか、もしくは単純に高齢化していくというイメージでデータを作られているか。

事務局：当然住んでいる方の減少もあるし、若者の流出もある。

委員：逆に言うと、ここで魅力ある湖西市を作れば人口が増えるという可能性もあるのか。

事務局：流入を増やすこともできると思う。

② 圏域の将来像（P15）

特になし

③ 定住自立圏共生ビジョン体系図（P16）、定住自立圏形成方針の具体的な取り組み（P17～）

委員：36ページの駅周辺の整備で、すでに新所原駅の橋を建設するのに市民協働という形で寄付を募ってやっている事業がある。これもビジョンの事業に含まれているのか。

事務局：想定をして取り組みを行う。

委員：定住自立圏を目指すために、何が大切で何が大切でないかということを委員として見ていかななくてはならないが、この背景にあるように色々な具体的な取り組みをやっていく中で、市はなににもせず、ただ協働だと寄付を集めるというような政策を他の事業にも声かけてやっていくのか心配。協働という意味は「みんなでお金を出し合って税金を使わずにこの事業を立ち上げよう」というものではない。

（2）結びつきやネットワークの強化については、湖西市外の人たちを活用しすぎている。土木工事、道路工事に対して、湖西市の人材を使わずに浜松市な

どの外部の人たちに安く発注している。湖西市で働いている土木建築の方たちにとっては今まさに魅力のないまちになっている。湖西市の人員をいかに活用していくかというのが必要な項目である。湖西市のためになるような湖西市民が誇れるようなまちづくりを市が行ってほしい。寄付というまやかしの協働はやめたほうがよい。

色々なところで計画が遂行されていると思う。その中で出直しのきかないような事業もあるし、5年で成果をあげろといっても絶対成果の上がらないものもあるので、(1)から(3)の中から不可能であるというものを考えなくてはならない。5年ですべて行うのは無理だと思う。5年で目安をつければよいのでは。

委員長：このビジョンは、ソフトであると思う。ハード面の進め方も考えていくべき。ハードを行うためにソフトである計画を行えば、ハードである事業にも支援があるということでのよいのか。

事務局：このビジョンの中で取り組む事業の経費に財政支援がある。特定の事業にというわけではない。

委員：最近の若い人、高校生や大学生のリターン率が確認できないか。社会人になっていく人の可能性を知っておくべき。

事務局：今回は回答できないので一度確認させていただきたい。

(4) 今後のスケジュールについて、事務局が説明

(質疑応答)

委員：求められているのは、ビジョン策定にあたっての意見でのよいのか。

事務局：ビジョン(案)について、現状データの追加、削除のご意見を頂きたい。

委員：将来像の骨子部分がわかりづらい。方向付けについても意見を出せばよいのか。

事務局：そのような意見を出していただきたい。

委員長：今回は初めての説明なので、気がついたところや疑問に思ったことを意見していけばよいのではないのか。

今回は定住自立圏構想の概要についての説明、共生ビジョン(案)についての説明があった。今後のスケジュールの説明という形で懇話会を進めてきた。全体を通じて質問等は。

委員：資料の中に今後の人口の予測があるが、将来的に人口減をどのレベルにしたいのか。全国レベルの平均にしたいのか、それ以上にしたいのか。

事務局：総合計画では平成32年が最終の計画年度になっており、短期的な部分になってしまうが、平成32年で64,000人を目指したいというのが湖西市の人口目標である。

委員長：今回説明があった、3つの取り組み内容を詰めていかなければならない。本日の

懇話会では委員の皆様から様々なご意見が出た。これらの意見を事務局で十分検討し、調整していただき計画をより良いものにしていきたい。

次回の懇話会では具体的な事業が示され、さらに踏み込んだ会議になると思う。事務局には資料の事前配布・先ほど意見が出た資料等についても早めに対応していただきたい。

事務局：先ほどの質問にありました、流入・流出はどこからきているのか、就業者数が減っている理由、観光交流客数が減っている理由、高校生・大学生のリターン率は、調べて早急に皆様へお知らせしたい。意見の提出は7月31日までをお願いしたい。

4 事項連絡